

ファインケミカル事業説明会及び鹿島工場見学会(2016/12/8) Q & A 要旨

日本水産株式会社
経営企画 I R 室
広報 I R 課

- Q. 低濃度魚油の濃度を高める工程はどこか。
- A. 連続精密蒸留工程と液体クロマトグラフィー工程が一番の肝となり、コスト競争力や EPA 回収率に差が出るポイントである。
- Q. 医薬品原体については、国内市場においては現在販売している会社以外への販売は出来ないが、海外市場についてはどうなのか。
- A. 将来的な海外市場への展開については、今までの協力関係をふまえた上で、現在販売している会社と協力して行うことも一つの手段として考えている。
- Q. 高純度 EPA 医薬品において、日本の「エパデール」と米国の「Vascepa」について、違いはあるのか。
- A. 容量や細かい規格の違いはあるが、EPA 本体を活性化しているという点からも基本的には同じ。
- Q. 高純度 EPA 医薬品について、米国での物質特許等は無いか。
- A. 物質特許などは無い。そのため、現在医薬品原体を販売している会社についても、特許が無い（切れている）米国市場への展開を慎重に考えていた。現在米国市場で高純度 EPA 医薬品の先行品を販売している会社は、特許が無いにもかかわらず、EPA 医薬品を販売している。
- Q. 今後のリスクとなり得る他社特許はあるのか。
- A. 製品の細かい規格による特許については、他社と協力していくなどの手段によって対応していく。
- Q. 医薬品原体を供給するメーカーとして、中間体を購入して精製するメーカーと原油から調達して精製するメーカーの主な違いは何か。

A. 当社は原油から精製まで一貫して行うことでコスト競争力のある EPA メーカーとなっている。今後の供給拡大を考えた場合、中間体を購入するメーカーにとっては中間体メーカーの生産能力などが重要になってくると考える。そのため、供給の拡大に時間が掛かると考える。コスト面では、中間体を購入するメーカーは、コントロールしきれない部分が発生してしまうため不利に働くと考えられるが、魚油の変動リスクをヘッジしているという見方も出来る。

Q. 北海道ファインケミカルでの魚油タンクの稼働状況について教えて欲しい。

A. 現在フル稼働である。同社での魚油タンクに保管されている魚油の用途はファインケミカル事業だけでなく、水産事業の油飼ビジネス（養殖魚の飼料など）でも使用されている。

Q. 回収率や歩留りの状況について教えて欲しい。

A. 当社の状況については機密事項のため開示することは出来ない。他社の状況についても推測の域を出ないため、過去の推測も含めてお答えできない。低濃度魚油からの EPA 回収率向上については現在取り組んでいる課題の一つである。

Q. 原材料（国内産マイワシやペルー産カタクチイワシなど）の資源状況や魚油に含まれる EPA 含有率について教えて欲しい。

A. 国内産マイワシは資源量が徐々に回復している。EPA 含有率についても上昇している。今後の状況次第では国内産マイワシを調達することで、より一層のコスト競争力を得ることが出来る。水産事業での油飼ビジネスの恩恵もあり、日本でマイワシの魚油を扱っているのは当社が殆どであることから、今後の状況次第では有利に働くと見ている。

Q. 今後の為替状況などにおけるファンケミカル事業の影響をどのように見ているのか。

A. 円安に振れた場合は原材料高となるため、変動費が低い会社しか生き残れなく可能性がある（EPA 関連の事業から撤退してしまう可能性がある）。そのような状況になると、当社としてはむしろ好機となることも考えられる。

Q. 魚油の価格が決まる要因は何か。ここ数年で魚油の値段が上がった要因も合わせて教えて欲しい。

A. 資源環境等の要因もあるが、大きくは「EPA/DHA の普及による需要増」と「水産養殖での飼料需要増」の 2 つがある。需要増による 2 つの影響のうち、水産養殖での飼料の需要が増えた影響が大きい。

Q. 魚油に含まれる EPA 含有率と EPA 回収率の関係を教えて欲しい。

A. EPA 含有率が高いほど回収率は高まるが、EPA 含有率の高い魚油はその分外貨ベースでも高値となる。そのため、低濃度魚油からでも高い回収率を維持できればより一層コスト競争力が高まる。今後は現在調達している魚油からの EPA 回収率の更なる向上と合わせて取り組んでいく。

Q. 米国で REDUCE-IT(※)のポジティブな公表が出た場合の影響を教えて欲しい。

A. 米国内での高純度 EPA 市場が急拡大すると考えられる。今後のグローバルでの供給状況を予測すると、需要拡大に比べられる供給メーカーは当社しかないと考えており、チャンスと捉えている。

Q. 高純度 EPA の今後の価格推移予測を教えて欲しい。

A. 需要が拡大すれば医薬品原体価格は下がると見込む。現在でも消費者が使いやすい価格に下がっていると思う。米国での REDUCE-IT の結果が良好であれば、さらにその傾向は進むだろう。そのような状況になると、品質とコスト競争力を持つ EPA メーカーしか生き残れなくなる。

(※)REDUCE-IT…米国で実施されている冠動脈疾患リスクの高い患者に対して高純度 EPA の効果を検証するための大規模長期試験。2018 年に最終報告。

以上